我羅門の
ネットワーク通信入門　２

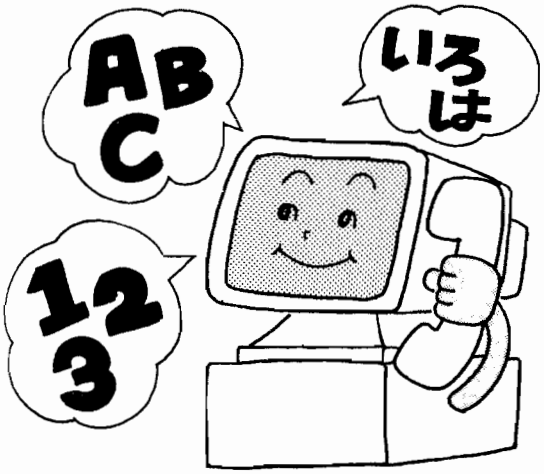
お久しぶりです。何とか、連載を続けてもいいということなので、前回に引き続き「ネットワーク通信入門」を続けましょう。（天の声：編集部の異例ともいえる温情で続けさせてもらっているんとちゃうんかいな。あっ、私も皆さんからの「ひっこめ！」という話があったかなかったかに関わらず、またしゃしゃり出てきました。今回もよろしく）

前回は、この「入門」でどういう話をしていくかということをお話しましたね。今回は、ネットワーク通信でいろんなひとと意見を交換できるというはなしをしていきます。

いきなり、明るくない話で恐縮なのですが、１９９１年の世界を揺るがした「湾岸戦争」を覚えていらっしゃいますか？皆さんのなかには、特別の感情を持たれている方もいらしゃるかもしれませんが、非常に大きなできごとでしたね。あの時もネットワーク通信では、いろんな人のいろんな意見が聞けました。

イランを否定する人もいれば、アメリカを否定する人もいる。日本の自衛隊海外派兵についても議論される。大きな規模のＮＥＴだと、それ専用のコーナーをつくって、（天の声：ＮＥＴによっては、会議室、フォーラム、掲示板、ボードといろんな呼び方をしているんだな。あら、茶々になっていない、これじゃ補足説明じゃないか）いろんな職業の人が自分なりの意見を述べていました。私もあるＮＥＴで自衛官の方から、自衛隊海外派兵について意見を聞かせてもらったことがあります。

こんなふうにネットワーク通信では１つの出来事に関して、自分の意見を述べ、他の人の意見を聞くことができます。しかも自分の周りにはいないような職業の人の意見が聞けるのです。物事に対しての自分とは違った考え方を知ることが出来るというのは、とてもいいことではないでしょうか？見聞を広げるだけでなく、物に対する考え方も広げることができます。ネットワーク通信では、お互いが自分の素性といったものを知らせることなく、意見を述べれますから、ザックバランな会話ができます。（天の声：ネットワーク通信では大概本名じゃなくて、「ハンドルネーム」というペンネームみたいなものを使うんだよ。おい！我羅門この点については説明せんのか？なに、次回説明するって！次回ってあるんかいな）



直接、私が関係したわけでないのですが、こんな事があったそうです。

平成２年のことですからもう２年前にな

りますね。神戸のあるＮＥＴで実際にあったことです。あるネットワーカーの友達（仮にＳさんとしましょう）の母親が病に倒れたんだそうです。病院の先生曰く、「中国の雲南省が産地の漢方薬が効果がある。」しかし、この漢方薬が日本では手に入れることが難しいそうで、Ｓさんは、途方に暮れていたそうです。そこでこの友人のネットワーカーが見るに見かねて、ネットワーク通信を利用して、問いかけたそうです。あるＮＥＴのボードに「この漢方薬を売っているお店知りませんか？」と。翌日には、そのＮＥＴを見ていた会員から神戸方面の漢方薬局のリストが届き、その翌日には、「薬入手の目処がたった」という知らせが彼のところに届いたそうです。そのＮＥＴのメッセージを読まれた別の会員の方が全国規模のＮＥＴに「どなたかしりませんか」と問いかけたところ、東京の方でやはりおなじ病で苦しんだという方が名乗りを挙げてくださり、しかも漢方薬の入手が可能ということでした。そして、宅配便で漢方薬がとどきました。Ｓさんが相談をもちかけてから、１週間程の出来事だったそうです。

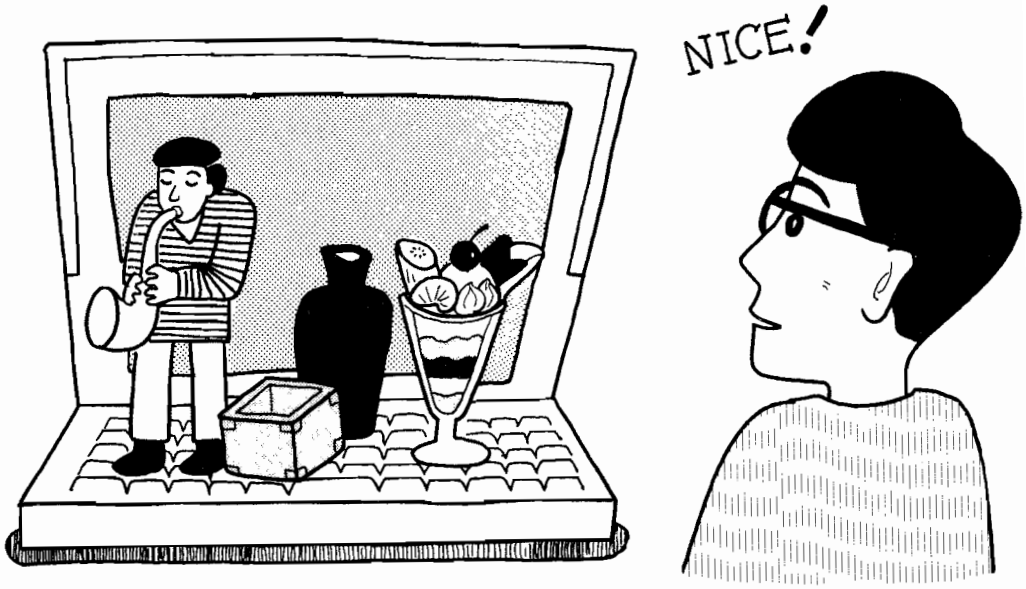
この話を直接聞いたわけではないのですが、そんな事件があったあとに、偶然そのＮＥＴに入会したものですから、とても身近に感じました。実際こんなうまくいくことは稀なことと思います。しかし、人と人のネットワークの素晴らしさを語った話だとも思います。（天の声：この話を読んで涙流していたのは、誰だ？）小さな自分でもこうして、ネットワークの一員としてなんかできるのではないか、と思ったのも事実です。

突然ですが、「ヴァーチャルリアリティ」という言葉を聞いたことがありますか？（天の声：突然なやっちゃな、びっくりするがな）

あまり、一般的になっていないので、聞いたことがないかも知れませんね。コンピュータ業界では、一昨年辺りから注目されてきている技術の一つです。日本語で訳せば、「仮想現実感」と言われています。実際に体験できない世界を現実に体験したような感じを受けることが出来ることとでもいいますか。最先端の「ヴァーチャルリアリティ」では、三次元ディスプレイを使い、データグローブという手袋を使って、ディスプレイ上に浮かんだ物体を取るということが出来るそうです。（天の声：我羅門自身も「バーチャルリアリティ」のなんたるかを全く理解してないようだのう。といっても私が説明できるわけでもないので、その筋の専門家か、専門書を読んでみてくれ。しかし、ネットワーク通信とどういう関係があるんじゃ？）

ネットワーク通信でも、最先端の「ヴァーチャルリアリティ」には程遠いですが、仮想現実を体験することができます。同じＮＥＴにアクセスしている人が、「○○ショーをみてきました。」とか、「××のお店は、チョコレートパフェがおいしかった」とか、「△△の酒屋でこんな酒を呑んだ」とか、そういうメッセージが書き込まれ、自分がそれを読むと自分もそのお店に行ったような気にさせてくれる。まーそういった意味の「ヴァーチャルリアリティ」です。
自分が今日体験した事をＮＥＴに書き込むと誰かがそのメッセージを読んでおなじ体験をしたように感じる。未体験なことでも、そのＮＥＴで体験している人の話を聞けば、体験したことになる。この間も、子供の予防注射の事について、若いパパがＮＥＴを通じて、すでに体験されている先輩パパさんに問いかけている光景を見かけました。

今回は、ネットワーク通信に大勢のいろんな方が、「アクセスしている」ということから、以下のようなことを紹介しました。（天の声：おお。まとめにはいったな）
１つの物事、事件に対し、意見の交換ができ、自分と違った意見、考え方に遭遇出来る。
人と人との広範囲なネットワークが形成できて、助けてもらったり、助けたりという、人の暖かさに触れることができる。
自分の体験していないことでも、文章という制限はあるけど、体験することができる。
いかがですか、こういう面白い体験をしてみませんか？
次回は、ネットワーク通信の光と影、「匿名性」というのを説明しますね。



----<<読者からのお手紙>>----

FLANKER 宛に何通かお便りが届いたそうです。その中から「ネットワーク通信入門」に対するご意見にたいして、回答したいと思います。（天の声：こんなこと勝手にやっていいのかいな？なに、ネットワーク通信は人と人とのコミュニケーションが第一だって、だから、読者のご意見に対して回答することでコミュニケーションを計るだと。ま一立派なこといっているけど、大丈夫かいな）

豊中市のA．Nさんから

「ネットの紹介をしてはどうか」

ネットを一つ一つ取り上げて紹介していくというのも、おもしろい企画かもしれませんね。第一回の時にも書いていたのですが、この「ネットワーク通信入門」では、ネットワーク通信自体の面白さ、楽しさ、可能性を紹介するにとどめています。そして、その中から「ネットワーク通信」自体に興味を持ってもらい、自ら自分の手でネットワーク通信の世界に飛び込んできてもらいたいなどと考えています。ネットの紹介自体は、いろんな書籍で「商業ネット」「草の根ネット」の紹介がありますからそれを参考にされた方が情報が正確で幅広く知ることができると思います。

「ネットでの話題をフィードバックさせてはどうか」

これには、著作権というむずかしい問題がありまして、全文を掲載することは、まず不可能なことだと思います。そのメッセージをかかれた方と、ネットの主催者の承諾をえる必要があります。メッセージは、多くの人がかかれていますので、個別にとっていくとなると、大変な作業になると思います。また、「こんなネットでこういう話題をしていますよ」という情報でしたらそんなにむずかしくないかも知れませんが。残念ながら筆者が頻繁にアクセスしているネットは数が非常に限られますし、そのネット自体もすべてを把握しているかと尋ねられますと、疑問符が並びます。とういうことで、A．Nさんのご意見に沿うようには行きませんが、なにとぞ、この辺のことをご理解してください。（天の声：単なる我羅門の力がないということのいいわけだな）

神戸市のN．Kさんから

「執筆者の横顔を紹介してください」

ここで言われている「筆者」というのは、私のことでしょうか？そういえば、FLANKER の創刊号には、編集者のプロフィールが載っていたけど、私のプロフィールはなかったですね。私は編集者とは違うのでいいのではないかと思っていたのですが、やっぱり必要なのでしょうか？編集長と相談してみましょう。（天の声：我羅門のプロフィールは知らないほうがいいのではないかな）